

受講番号 19060 学校名 青柳中学校 氏名 北村 実

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 40名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 3 (東京書籍)

クラスの様子・特徴

今回の実践対象クラスは、書くこと・読むことにおいては意欲的に取り組むことができるが、聞くことについてはテストを行っても弱い傾向にあり、話すことについてはペア学習を取り入れることにより幾分克服されてきた感がある。

問題の確定

基本文のリーディングに時間を取り、実際に英語を話すこと(スピーキング)につなげていきたい。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
リーディングのApart (TextのUnit3までのターゲットセンテンスを英語で書いたもの)には積極的に意欲的に取り組んでいたが、Bpart (Apartを日本語で書いたもの)になると自信がなく、声に出して音読できていない生徒が多く見られた。	研修対象のクラスの生徒にアンケートを行った結果、4技能全てにおいて、書く・読む・聞く・話すことを伸ばして行きたいという結果が出てきた。また、受験に向けて1年生からの復習に力を入れてほしいという要望も出された。	CRTの結果から4技能全ての領域において、市内の平均を上回っていたが、書くことにおいては「伝えたい内容を考え、正しく書く」の小領域の正答率が低かった。

リサーチ・クエスト

ターゲットセンテンスのリーディングを定着させ、表現力(スピーキング)を伸ばすためにはどのような指導がよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1 生徒の希望する「話すこと」の力を身につけさせることができるようターゲットセンテンスを何度もくり返し音読することができれば「話すこと」への抵抗感がなくなり「スピーキング」への意欲につながるのではないかと。	実践1 授業のウォームアップとして、1学期に既習したターゲットセンテンスのリーディングに力を入れて取り組んだ。①ペアになり上述したApartをお互いが向き合っ、パートナーが音読するのを2分間でどれだけ音読できるか聞く。②逆になり同じことをくり返す。	検証1 「ターゲットセンテンス」のリーディングには、ペアともに非常に意欲的に取り組んだ。回を重ねることに楽しく行っていることが目に見えて分かった。グリーンシート(Apartを表面、Bpartをその裏面に緑色の紙で刷りラミネート加工したもの)を配布して実践したのであるが毎時間授業が始まる前から練習している生徒の姿も見られるなど意欲的に取り組めた。
仮説2 ターゲットセンテンスを正確に声に出し音読することができる。更には、覚えることが覚えることが暗誦へとつなげることができれば定期テスト等の結果も良くなるのではないかと。また、リーディングを習慣化することにより英語の学習方法も身につくのではないかと。	実践2 ①について、ただ単に読むのではなく「主人公の気持ちになってその内容を理解しながら、流暢にスラスラ読む」努力と「発音にも気をつけて読もう」とアドバイスし取り組ませた。生徒たちは、意欲的に取り組んでいた。	検証2 このことをくり返し行うことで、2学期の中間テストと期末テストの結果にも大きな違いが出てきた。中間テストは3クラス中平均が最下位だったのに対し、期末テストでは優秀なテスト結果へとつながった。いかにリーディングが大切なのかを実感してくれたと思う。
仮説3 「ターゲットセンテンス」をマスターすることにより、話す活動に自信を持ち、意欲的に取り組むことができるだろう。	実践3 「ターゲットセンテンス」を参考に辞書を用いて、英文を、たくさん「書かせる」ように努めた。その後仕上がった文章をペアになり暗誦できるまでくり返し練習させた。最終的に「ALTの先生とのスピーキング(対話)活動に向けて取り組んでいく。ALTの先生の質問に対して英語で更に答えるように」とも伝え、その練習にも時間を費やした。	検証3 ALTの先生との目の折り合いがつかず、JETとのスピーキング活動となったが、全員の生徒が相手の目を見ながら3年生で1学期に既習した内容の質問をしてきたので「やった」という達成感があった。

研究の成果

「ターゲットセンテンス」のリーディング練習から、「スピーキング」の力がすぐにアップするとは思ってもおらず、非常に困難であると感じていた。しかし、実践している生徒たちの楽しそうな笑顔を見て「やってよかったな」と今、心から感じている。たとえ「スピーキング」の力をすぐに伸ばすことは困難であっても、何らかの形で英語を話そうとする訓練ができたことが収穫であった。

今後の授業改善の課題

12月に行ったアンケートから、「ターゲットセンテンス(基本文)をくり返し読み(リーディング)、その取り組みから、英語を話すことにつながっていくと思いますか」の質問に対してクラスの82、5%の生徒が「はい」と答えた。ただ英文を読むのではなく流暢に読ませることの大切さも痛感した。また、この実践を通して表現力(スピーキング)をいかに身につけさせるかが今後の課題である。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 088-882-7471